

意外な場所で南極老人星をじっくり見ました

佐保公隆

赤緯 - 52 度にあるカノープスは、滅多に見られない星と言われます。でも、自分のアパートのベランダからは、霊山の上を東から西へ動いていく様子が観察できます。それで、特に珍しいということもないと思っていたのですが、こんな所で見ることになろうとは思っても見ませんでした。というのも、ちょっとしたことから皮膚の病気になり、大学病院に入院したからです。

5 階東 502 号室に入ったのが、10 月中旬でした。最初は病状も思わしくなかったのも、精神的にゆとりもありませんでした。でも、晴れた日が続き、入院生活にもだんだん慣れてくると、周りを見る余裕も出てきます。

病院の夜は、10 時の消灯から朝 6 時までは何もできないのでじっとしています。でもベッドが窓際でしたので、あらかじめブラインドを少し上げておいてもらって、夜中に眠れないときは窓の外に星を見ていました。空が見える範囲は、南向きの左右 90 度ほど、上下 30 度ほどです。このような限られた範囲しか見えない空でしたが、それでも貴重です。

消灯後は、南西にみなみのうお座のフォーマルハウトや東南にエリザヌス座の星が見える程度で寂しい秋の星座です。そして、夜中の 1 時頃には冬の星座が見えるようになります。南東側には上りかけたシリウスを見ることができます。オリオン座は見えませんが、うさぎ座の南半分とその下にははと座が見えます。はと座は今までよく見ることはなかったのですが、星図で見ると意外と広い範囲にあり驚きました。

2 時を過ぎる頃にはとも座の星々とともに、カノープスも見えてきます。眠れなかったのでじっくり見ることができました。稜線上を這うように移動する星は不思議な感じですが、高く上がることもなく沈むこともなく移動する様子に、地球に近い星ではないかと勘違いしてしまいました。また自動車のヘッドライトのようにも見えて、なんとなく親しみがわいてきます。

おおいぬ座の南辺りは意外と星が多く、空の状態がよい日は山の稜線近くまで見ることはできました。限られた範囲に絞って星を見ることも楽しいのではないかと思います。入院中でも、南向きの窓際という位置に入ることができて、しかも周りがあまり明るくなかったことで、星を見ることができたのは幸いでした。

その後、11 月中旬には退院することができました。退院後、自宅療養の 1 週間目の夜中に久しぶりに目が覚めたので、カノープスを見ようとベランダに出ましたが、見ることはできません。病院から見える時間になると、山に隠れてしまうのです。条件が合わないと見ることができない星だなあと感心しました。

病気の方は、6 月中旬現在のところ病院には通っていますが、薬の量も減って安定しています。あとどれくらいかかるか分からないのですが、辛抱強くじっくり直して行こうと思っています。